

2017年度 中京大学入学式祝辞

学校法人梅村学園 総長・理事長 梅村清英

桜花爛漫のこのよき日に、中京大学の学部並びに大学院研究科の入学式を迎えました。学校法人梅村学園を代表して、ご挨拶申し上げます。入学生の方には心よりの祝意とともに歓迎の意を表します。また、ご列席の保護者の皆さま方には謹んでお慶び申し上げます。

入学の皆さんの晴れやかな姿をここから拝見しておりますと、今から30年前、1987年4月の自分の姿が重なってきます。私は本学経済学部の第一期生として、入学式に出席していました。そして今、皆さんを後輩として迎えることに喜びを覚え、さらには責任をも感じております。

多くの仲間と共に過ごした学生生活は良い思い出ばかりです。皆さんにもいづれそう思っていたかなくてはなりません。我々教職員は皆さんに質の高い教育を提供していきます。そして最終的には、就職などの進路選択と卒業、さらに卒業後まで様々な形でサポートしていきます。

本学は1954年に短大として開学し、その2年後に4年制大学となりました。絶えざる改革により、現在は、名古屋、豊田の両キャンパスに、11学部11大学院研究科を擁する総合大学となっています。

中部地方はモノづくりの拠点です。それを踏まえて4年前に工学部を開設し、先月、初めての卒業生を送り出しました。そして、本年度、大学院工学研究科が誕生し、本日、入学生を迎えることとなりました。

また、文学部には、この地域の豊かな歴史を学ぶ歴史文化学科を設け、来年度に大学院文学研究科歴史文化専攻を開く準備も整いました。

長期計画「NEXT10」に基づく様々な改革プロジェクトが進行しています。「しなやかに挑み続ける新生・中京大学」は「自ら考え、行動することのできる、しなやかな知識人を育成」していきます。

名古屋キャンパスは、開学60周年の節目に竣工した本部棟、図書館・学術棟、開学40周年記念で建設したセンタービルなどが威容を誇っています。

豊田キャンパスは、広大で緑豊か、トップアスリートらが集います。アイズアリーナでは、2018年冬季オリンピック・平昌大会を目指す宇野昌磨さん、本郷理華さんらが練習しています。総合施設整備計画が進んでおり、このうち中核をなす新体育館はこの三月に着工となりました。

昨年の夏季オリンピック・リオデジャネイロ大会で、学園関係のオリンピック選手は延べ100人を超えました。2020年は東京大会です。本学では関連のスポーツ・ミュージアム構想が具体化しています。ミズノ株式会社との連携協定により、トップアスリートの育成・強化を図っています。

さて、世界に目を向けると、年々不透明さを増しているというのが現実です。「イスラム国（IS）」による自爆テロの世界各地への拡散や、それとも関連した難民や不法移民の急増などにより、保護主義の動きが台頭してきました。

事前の予想を覆すような事態が次々と起きています。イギリスは国民投票によりEU（欧州共同体）からの離脱の道を選択しました。米国ではドナルド・トランプ氏が新大統領となり、過激な政策を推し進めようとして

います。

そうした激動の時代にあって、皆さんには確かな目で生き抜く力を身につけてもらわなければなりません。時代を読み解くキーワードはやはりグローバルズムです。ヒト・モノ・カネの移動は地球規模となり、日々拡大を続けています。

もちろん、本学では、2003年度の Semester 制導入など、対応は早くから進んできました。海外の大学との交換留学にかかわる個別協定校は 16 に達しています。

また、この3年間、海外の教育機関との連携協定締結を積極的に進めてきました。イタリアのヴェネツィア大学、次いで韓国の学校法人地山学園、さらに台湾の国立嘉義大学、台北市立大学と続けました。駐名古屋韓国総領事館ともそうした関係にあります。

ただ、そこで必要なのは単なる語学力の向上というより、幅広い知識の習得です。コミュニケーション能力を高めるにはお互いの国の歴史や文化への深い理解が必要です。それらを中心としたリベラル・アーツ教育、基礎的教育の充実を図っていきます。

幸いなことに、本学の学生は何より元気です。先輩たちは、資格センターやキャリアセンターの支援も受けながら、就職戦線で健闘してきました。有力企業への就職者が毎年増え続けており、公務員では最難関の国家総合職に合格者、最終的な採用者が出るまでになりました。

それに呼応するかのように入試戦線での地位も着実に上がってきました。そして、本日、皆さんを迎えることとなりました。本学は多くの分野で、目標とする「中部の私大No.1」の地位を固めつつあります。このことに誇りを持って、これからのキャンパスライフを過ごしてください。

本学を運営する梅村学園は、1923年の中京商業学校（現・中京大学附属中京高等学校）開設を始まりとしています。建学の精神は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」です。これは水戸学にある「文武不岐」、つまりは文武両道ということなのです。

学園創立者の梅村清光先生、本学開学者の梅村清明先生は、茨城県水戸市出身です。そこでの教えを、父祖の地である愛知県、その中心の名古屋で教育に携わろうという時、根本に据えました。校訓は「真剣味」です。真は知育、剣は体育、味は徳育を指します。3者のバランスの上に立った有為な人材の育成を目指しています。

私はこの梅村家の血筋を継ぐ者であり、本学入学以来、この道一筋に生きてきました。それゆえ「愛すべき母校」「誇るべき母校」としたいとの思いは人一倍です。建学の精神の具体化、自校教育の浸透を通じて、中京アイデンティティーの確立を図っていきます。

月日はあっという間に過ぎていきます。「高い志」を持って、怠ることなく、常に校訓「真剣味」で臨んでください。広く、深く学びながら、人脈を作ってください。これからの学生生活を教職員一同、全力で支援していきます。本日は誠におめでとうございます。ご健闘を心より祈念して祝辞とさせていただきます。

2017年4月1日